



令和2年2月7日

No. 59

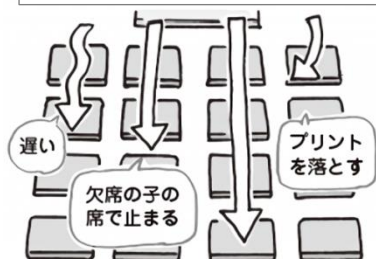
文責 校長 飯久保一男

礼儀・マナーについて

前号に続いて礼儀やマナーについて書かせてもらいます。

教室で担任が前から後ろに回すようにプリントを配ることがよくあります。一例です。列には6人いて、自分は4人目でした。前の人からプリントが回ってきました。自分を含めてあと3人いるのに2枚しかありません。担任が数え間違えたか、前の子が間違えて2枚とってしまったのかわかりません。つまり、自分が1枚とってしまうと、最後の人まで回らないことに気づきました。さて、どうしたらいいでしょう。

プリントを配るとき「あるある」



- ①自分が1枚とってそのまま回す。
- ②自分が1枚とって、後ろの人に足りないことを伝える。
- ③その場で先生に足りないことを大きな声で伝える。
- ④自分は取らないで後ろに回し、自分が先生にもらいに行く。

道徳の学習問題みたいですが、自分の後ろの人を「思いやる気持ち」によって行動が変わるのです。

次の例ではどうでしょう。同じく列に6人いる中で4人目でした。プリントの枚数は足りていましたが、1枚汚れているものが混じっているのに気づきました。こういう場合もあります。さて、どうしたらいいでしょうか。子どもたちに聞いてみてください。

…担任をしていたときに、提出物などを回収するのに出席番号順にする必要がある場合、どう回収すれば早くなるかをいろいろ考えました。何通りか試した結果、5の倍数の番号の子にその前の番号の子のものを集めさせて（5番の子が1～5番のものを集め、10番の子が6～10番を集め…とやっていく）合体する方法が一番有効でした。ものの30秒ほどで集められていました。テストをこうやって番号順に集めておくと、点数を名簿に控えるのに便利です、返すときも番号順に取りに来させられるので時間がかかりませんでした。

ものごとには必ず次があります。次の人を思いやる気持ちがあるかどうかによって、そのあとの行動が変わります。本校のトイレにはサンダルが置いてあり、トイレに入るときにはサンダルに履き替えます。トイレを出るときに、そのサンダルを次の人が履きやすいように向きをそろえるのは、次に使う人への思いやりです。



写真は本校のトイレではありません

ご飯を食べたあと、茶碗に米粒が付いていて、それが乾いてしまうと洗って落とすのに時間がかかります。自分が洗わないのであれば、米粒を残さないようにきれいに食べるのはもちろん、早めに片づけて、水に冷かしておくと、洗う人が楽になります。油ものがついている食器は重ねずに別にしておくことも洗う人のことを思えば当然です。食べ終わったらそこで終わりではありません。

ものごとには次があります。次のことを考えて行動することが、礼儀やマナーとなります。

…いつも私ごとになってしまいますがお許しください。ミニバスの練習や試合ではいろんな体育館を使います。市立の体育館を使うときもありますし、小学校の体育館を借りることもあります。私は、自チームが使ったあとにトイレのサンダルやスリッパが乱れていたと言われたくないので、チームの子たちには、最後に体育館を出るときに、トイレのサンダルがそろっているか確認するように指導しています。ゴミも同じです。自分たちが落としたゴミではなくても、自分たちが使ったあとにゴミが落ちていたと言われたくないので、ゴミの点検もさせます。

…ミニバスの大会のときのことで。大会ですのでいくつものチームが集まっていた。私がトイレで用を足していると、小学校低学年くらいの子どもが2人入ってきて、ササッと用を足して出ていきました。サンダルを脱ぎ散らかして…。私が「おい、サンダルをそろえていきなよ。」と注意すると、その子たちは素直にそろえ直していきました。たまたま一緒にトイレにいた他のチームの保護者が「監督のチームの選手の弟たちですか？」と私に聞いてきました。私が監督ということを知っている方ようで、私が指導するチームの応援に来ていた弟たちを注意したと思ったようです。「全然知らない子ですよ。」と伝えると、その方はちょっと意外な顔をしていました。知らない子を注意したことに驚いたようです。さすがにコワモテのニイチャンたちを注意する勇気はありませんが…。

サッカーのロシアワールドカップのあと、1人の女性のSNSへのツイートに世界が驚き、世界から称賛の声が上がりました。そのツイートには、日本代表が使用したロッカールームの写真が添えられていました。



「これはベルギーに負けた日本のロッカールームです。スタジアムではサポーターに感謝し、ベンチやロッカールームをきれいにし、そしてメディア対応をしました。またロシア語（キリル文字）で『ありがとう』と書かれたメモまで残していきました。すべてのチームの模範だと思います。」

とツイートされました。オランダ人のプリシラ・ヤンセンスさんのツイートです。FIFA（国際サッカー連盟）のスタッフとして大会の運営に関わっていた人です。

予選リーグの最終戦にオーバータイムで逆転され、決勝トーナメント進出を逃したサッカー日本代表が、怒りや悔しさでいっぱいだったことは容易に想像できます。しかし、まるで使用前のように清掃、整頓し、感謝のメモまで残していった行動に感動したのです。このツイートは瞬く間に広まり、日本人はもちろん世界中のメディアや多くの人々が反応しました。

「日本は **Class**（品格）がある。」

「素晴らしいマナーだ。いつか日本に行ってみたい。」

「子どもにスポーツを教えているコーチは、こういうことも教えるべきだね。」

こういった言葉がSNS上に並びました。

※おまけの話ですが、実はこのツイート主のプリシラさんは、このツイートをしたために、守秘義務違反ということでFIFAから解雇されています。

秋に日本で行われたラグビーワールドカップでも、日本人のマナーやおもてなしの心が話題になっていました。日本人のサポーターが試合後に観客席のゴミ拾いをしていくという話題は様々なスポーツの様々な大会でも取り上げられています。同じ日本人として誇りに思いますし、うれしくなる話題です。こういう行いができる日本に生きるものとして、自分もこうありたいと思いますし、また、これからの日本を担う子どもたちにも受け継がれてほしいと思います。そして、海外にも広がってほしいことです。事実、他の国の中でも、こういう場面でゴミ拾いをする姿が見られるようになったということです。また、学校教育に掃除を取り入れる国も出てきたということです。日本発の礼儀やマナーが世界に影響を及ぼしています。

そうはいつでも、教頭が毎週、校舎周りのゴミ拾いをしていますが、ゴミが落ちていない日はないそうです。私も朝、落ちているお菓子の空き袋やマスクなどを拾うことがあります。ぜひ、大明小の子どもたちには、礼儀やマナーを身につけてほしいと思います。礼儀・マナー・作法を身につけ、他の人を敬い、思いやりのある人は、あいさつもでき、正しい受け答えもできる人です。

